

胃がんについて

- ☑ わが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- ☑ 胃がん検診で早期に発見して治療することにより、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- ☑ 胃がん検診は50歳になったら2年に1度、胃部のX線検査もしくは胃内視鏡検査を繰り返し受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☑ 胃がん検診には利益（胃がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つからないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。利益が不利益を上回るように受けることが大事です。胃部 X 線検査と胃内視鏡検査を毎年交互に受診することは不利益が大きくなるため、推奨されていません。このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔、検査項目）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
- ☑ 胃がん検診で「要精密検査」となった場合は胃がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- ☑ 精密検査は胃内視鏡検査です。

がん検診に関するお問合せ先

○お住まいの市町村窓口にお問合せください

令和8年5月現在

市町村名	窓口	電話番号
那覇市	那覇市保健所 健康増進課	098-853-7961
宜野湾市	健康増進課	098-898-5598
石垣市	健康福祉センター	0980-88-0088
浦添市	健康づくり課	098-875-2100
名護市	健康増進課	0980-53-1212(内線263)
糸満市	健康増進課	098-840-8126
沖縄市	市民健康課	098-939-1212(内線2245)
豊見城市	健康増進課	098-850-0162
うるま市	健康支援課	098-973-4960
宮古島市	健康増進課	0980-73-1978
南城市	健康増進課	098-917-5324
国頭村	福祉課	0980-41-2765
大宜味村	福祉保健課	0980-44-3003
東村	福祉保健課	0980-43-2202
今帰仁村	健康づくり推進課	0980-56-1234
本部町	健康づくり推進課	0980-47-5602
恩納村	福祉健康課	098-966-1207
宜野座村	健康福祉課	098-968-3253
金武町	保健福祉課	098-968-5932
伊江村	医療保健課	0980-49-2234
読谷村	健康増進課 健康づくり係	098-982-9211
嘉手納町	町民保険課	098-956-1111
北谷町	保健衛生課	098-936-4336
北中城村	健康保険課	098-935-2267
中城村	健康保険課	098-895-2172
西原町	健康保険課	098-911-9163
与那原町	健康保険課	098-945-6633
南風原町	国保年金課	098-889-7381
渡嘉敷村	民生課	098-987-2322
座間味村	住民課	098-896-4045
粟国村	民生課	098-988-2017
渡名喜村	民生課	098-989-2317
南大東村	福祉民生課 保健センター	09802-2-2116
北大東村	福祉衛生課	09802-3-4567
伊平屋村	福祉保健課	0980-46-2142
伊是名村	住民福祉課 保健センター	0980-45-2137
久米島町	福祉課	098-985-7124
八重瀬町	健康保険課	098-998-1149
多良間村	住民福祉課	0980-79-2623
竹富町	健康づくり課	0980-82-7519
与那国町	長寿福祉課	0980-87-3575

「胃がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター
がん情報サービス

ganjoho.jp



発行: 国立がん研究センターがん対策研究所 2023年12月
 協力: 厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する、職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班
 国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班

※<市区町村の住民検診を受けられた方へ>
 がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。

胃がん検診を
これから受ける方、
受けた方へ



胃がん検診を受ける前に 知っておくこと

胃がんに罹患する人（かかる人）は50歳代以降に多く、わが国のがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。国が推奨している胃がん検診（胃部X線検査、胃内視鏡検査）は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、50歳以上の方は2年に1度、繰り返し検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために不必要な治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

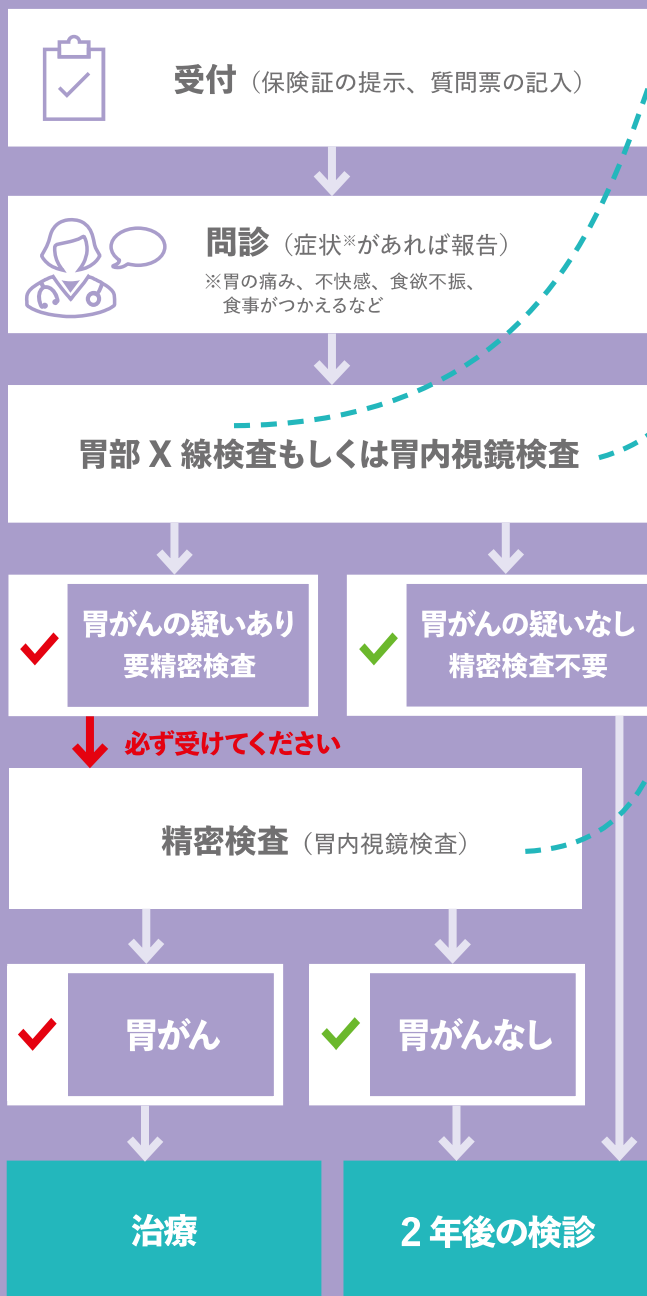
がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html



胃がん検診の流れ



→胃部X線検査

発泡剤（胃を膨らませる薬）とバリウム（造影剤）を飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。検査後、バリウムで便秘になったり、腸内で詰まって腸閉塞を起こすことがあります。また、過去にこの検査で問題があった方や、水分制限を受けている方は、検査を受ける前に医療スタッフにご相談ください。

→胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。検査前に喉の局所麻酔などを行います。検査時に疑わしい部位が見つければそのまま精密検査として生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合があります。その場合は保険診療となり自己負担が発生します。

- 検査当日は朝食が食べられません。
- 常用薬、アレルギーがある場合はご相談ください。

→精密検査は胃内視鏡検査

胃部 X 線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で疑わしい部位が見つければ、生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合もあります。

- 検診で胃内視鏡検査をうけた場合、精密検査は、検診時に同時に行う生検や、胃内視鏡検査の再検査となります。



→50歳になってから、2年に1回、X線または内視鏡による検診を繰り返し受けることで、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。

胃がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合には次の検診を待たずに医療機関を受診してください。胃部X線検査と胃内視鏡検査を毎年交互に行うことは不利益が大きいため、推奨されていません。